

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2015年1月31日(土)、2014年度第5回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度春季大会(武蔵野大学)準備の進捗状況について

使用教室の手配状況、当日のタイムスケジュールを確認し、調査研究推進委員会によるセミナー、本学会会長による理念体系の説明会について、タイムテーブル上の枠を決定した。

2. 2015年度春季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表21件、ポスター発表20件、パネルセッション6件、デモンストレーション発表8件を採択した。審査後、不採択者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。

3. 2015年度秋季大会の大会企画・運営について

委員会内に設置された企画ワーキンググループにより、沖縄の日本語教育関係者による発信の場としての特別プログラムが提案され、実施に向け現地関係者との調整を行うことを承認した。また、会員団体を対象とした教材紹介コーナーの実施を決定した。

4. 大会委員会企画パネルセッションについて

2014年度第3回大会委員会で承認された新たな枠組みに沿った企画の具体的な運用方針・事例案につき意見交換を行った。

5. 2016年度以降の大会企画・運営について

2016年度春季大会を、目白大学で開催することを決定した。

6. 委員改選について

次期委員候補者の内諾状況についての報告後、大会委員会改組後の査読体制および査読ガイドラインの提案があった。

次回の委員会予定：2014年4月25日(土)

(庵功雄)

● 学会誌委員会

2015年3月14日(土)午後1時-5時半、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

160号・162号の刊行準備進捗状況、第10回林大記念論文賞の授賞論文の決定、次期委員の内諾状況などの報告

の後、以下のとおり審議が行われた。

- 161号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。
- 161号投稿論文(投稿総数32本(研究論文19、調査報告6、実践報告4、研究ノート3))の審査。
- 165号(2016年12月号)の特集テーマの検討。
- 委員への査読アンケート結果および検討事項の整理。
- 文献リストの表記およびチェック方針の検討。
- 査読協力者の登録更新・新規就任依頼の決定。

次回委員会予定：2015年6月27日(土)

(齋藤ひろみ)

● 研究集会委員会

◆研究集会実施報告

1. 2014年度第8回研究集会(東北地区)

日時：2014年11月15日(土)11:00-17:10

会場：盛岡大学砂辺キャンパス

参加人数：34名(会員17名、一般17名)

内容：ワークショップ、研究発表(口頭)7件

ワークショップ講師：小河原義朗氏(北海道大学)「ペア活動を取り入れた読解授業」

近くは県内から、遠くは東海地方からの応募者に恵まれ、午前と午後に分かれて7件の発表があった。内容も、外国人児童生徒に関わるものが比較的多く数件あったが、他にも漢字学習、発音指導、ボランティア、中上級学習者など、多岐に渡った。参加者も大学教員・日本語教育の研究者だけでなく、英語学の研究者、大学院生、中学校教員、日本語学校教員、中国から来日していた客員研究者など様々な方々にご来場いただいた。

ワークショップでは、参加者たちがペアを組んで実際の授業と同じ読解の仕方を経験し、気づきの発見を行った。なおワークショップは、共催した盛岡大学言語教育研究委員会の行事のひとつという名目で開催した。

(嶺岸玲子)

2. 2014年度第9回研究集会(中国地区)

日時：2014年12月20日(土)10:00-16:30

会場：岡山大学津島キャンパス

参加人数：81名(会員51名、一般30名)

内容：講演、研究発表(口頭10件、ポスター3件)、活動報告(口頭2件)

講演講師：伊東祐郎氏(東京外国語大学)「日本語力向上のためのテスト・アセスメント」

大学関係者に加えてインターナショナルスクールやビジネスカレッジ関係者など多様な背景の参加者81名が、中国地方以外の愛知、金沢、東京などからも集まった。口頭発表は2つの会場に於いて午前と午後各6組ずつ、そして昼食の時間帯には3組のポスター発表が行われた。研究発表・活動報告のテーマは、語彙・漢字・音

声指導、談話分析、キャリアと日本語習得との関わり、科目間連携、国際バカロレア普及への対応、外国人児童の指導など多岐にわたり、各会場で活発な意見も交わされた。伊東祐郎氏による講演では、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」の説明の後、テストで測定しようとする日本語力の捉え方や測定手法のあり方についての考察がなされ、テスト本来の持つ役割とは何なのかを問い直す貴重な機会となった。

(森岡明美)

3. 2014年度第10回研究集会（関西地区）

日時：2015年2月28日（土）13:00-17:30

会場：龍谷大学深草キャンパス

参加人数：165名（会員165名）

内容：講演、研究発表（口頭22件）

講演講師：田尻英三氏（龍谷大学）「日本語教育関係者の社会的責務」

これまで3月に行われてきたが、今回会場校の都合で2月になったにもかかわらず、多数の参加があった。

発表は、関西圏からはもとより、関東、東北、九州、さらに韓国と、広範囲からの発表者により22件の口頭発表が行われ、内容も、文法、教授法を中心に、バラエティに富むものであった。

講演は、田尻英三先生が「日本語教育関係者の社会的責務」をテーマに、日本語教育関係者が日本語教育を広く理解してもらうために他の分野の団体とも積極的に交流を行い、自分の実践技術を積極的に社会に公開すべきであるなど関係者が社会との積極的な関わりを持つことの重要性、必要性を訴えられた。

長年日本語教育の発展に尽力されてきた田尻先生だが、本年度で退職される。講演の最後には会場にいらした夫人への謝辞が述べられ、会場から拍手が送られた。

(三原龍志)

◆ 今後の研究集会予定

1. 2015年度研究集会

・第1回研究集会（九州沖縄地区）

2015年6月6日（土）・7日（日）、北九州市立大学

講演・ワークショップ講師：畑中豊氏（福島県いわき市立江名中学校）講演「ことばの力を探求しよう！一何をめざして、外国語を教える／学ぶのかー」ワークショップ「体験してみませんか、畑中マジック！ー笑い、涙と学び、そして愛のある授業ー」

・第2回研究集会（中部地区）

2015年6月13日（土）、名古屋大学IB電子情報館

講演講師：池田玲子氏（鳥取大学）「ピア・ラーニングによる日本語授業実践ー授業デザインのポイントー」

・第3回研究集会（北陸地区）

2015年6月20日（土）、富山大学

講演・ワークショップ講師：向後千春氏（早稲田大学）

「日本語教師のための教える技術ー教える技術と研修への活用ー」

・第4回研究集会（北海道地区）

2015年7月4日（土）、北海道教育大学函館校

ワークショップ講師：池上摩希子氏（早稲田大学）「改めて考える「地域日本語教育」の役割ー私たちがしたいこと・私たちができることー」

・第5回研究集会（関東地区）「実践研究フォーラム」

2015年8月1日（土）・2日（日）、国際交流基金日本語国際センター

実践広場出展応募締切：2015年5月11日（月）

・第6回研究集会（関西地区）

2015年9月5日（土）、園田学園女子大学

発表応募締切：2015年5月9日（土）

講演講師：西尾純二氏（大阪府立大学）「マイナス待遇表現行動の研究の展開と可能性」

・第7回研究集会（四国地区）

2015年10月24日（土）、香川大学

発表応募締切：2015年8月予定

・第8回研究集会（東北地区）

2015年11月予定、秋田大学

発表応募締切：2015年8月予定

・第9回研究集会（中国地区）

2015年12月19日（土）、広島女学院大学

発表応募締切：2015年8月予定

・第10回研究集会（関西地区）

2016年3月予定、大阪にて開催予定

発表応募締切：2015年11月予定

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆ 次回会議日程

1. 全体委員会

2015年度第1回研究集会全体委員会（2015年5月31日、武蔵野大学有明キャンパス（春季大会会場））

2. 関東地区委員会

・2014年度第6回関東地区委員会

（2015年3月14日、国際交流基金日本語国際センター）

・2015年度第1回関東地区委員会

（2015年4月18日、日本語教育学会事務局会議室）

3. 地区代表者会議は、日程未定。

● 教師研修委員会

◆ 研修実施報告

1. 日本語教師のためのオンラインIT講座

講師：中澤一亮氏（台湾・元智大学）
開催日：2015年1月26日（月）～3月20日（金）
参加者：11名

2. 教室活動のデザインⅦ

「ARCS理論で、授業を魅力的にしよう！ー授業デザイン理論から日本語授業を再考するー」

講師：鈴木克明氏（熊本大学）
開催日：2015年3月15日（日）
会場：東京大学駒場キャンパス 参加者：40名

◆2015年度研修予定

1. 児童生徒の学びを支えることばの力

ー特別の教育課程化から広げる学びの支援の可能性ー

講師：石井恵理子氏（東京女子大学）
開催日：2015年6月28日（日）
会場：早稲田大学早稲田キャンパス 定員：50名

2. 夏季集中研修（話し合いの評価／談話分析）

開催日：2015年8月8日（土）・9日（日）
会場：東京大学駒場キャンパス 定員：80名

3. 反転授業

開催日：2015年9月または10月予定
会場：未定 定員：40名

4. 教材開発

開催日：2015年11月または12月予定
会場：未定 定員：40名

5. タスク再考

開催日：2016年1月予定 会場：未定 定員：40名

6. 教室活動のデザインⅧ

開催日：2016年1月予定 会場：未定 定員：40名

7. ナラティブ

開催日：2016年2月または3月予定
会場：未定 定員：40名

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合がございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2014年度第4回教師研修委員会（2015年2月14日）

- (1) 次期委員候補者
- (2) 2014年度研修進捗状況報告
- (3) 2015年度研修企画
- (4) 今後の会議予定

◆次回会議日程

1. 2015年度第1回教師研修委員会（2015年4月18日）
（舘岡洋子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2015（平成27）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係（kaiin@nkg.or.jp）にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（kaiin@nkg.or.jp）までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会员 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552／E-mail：kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：gakkaishi@nkg.or.jp